



臨床美術ジャーナル Vol.3 No.1 (2014) 目次

【巻頭言】

発刊にあたって

渡辺信英 (東北福祉大学学長補佐/第5回臨床美術学会大会長)

【特別寄稿】

アーティストの視点—アーティストによるワークショップの事例から—

安藤美奈 (東京藝術大学大学院美術研究科リサーチセンター 非常勤講師)

【投稿論文】

臨床美術士のナラティブ・アプローチの意義

北澤晃 (富山福祉短期大学)

【第5回大会(2013年)特別講演】

感覚と病～たかが感覚、されど感覚～

玄侑宗久 (作家、福聚寺住職、元東日本大震災復興構想会議委員)

【第5回大会(2013年)シンポジウム】

自己再帰性の諸相

大城泰造 (東北福祉大学准教授)

子どもの「生きる場」における自己表現とコミュニケーション

鈴田泰子 (東北福祉大学)

「臨床美術」と「存在論的人間観」

関根一夫 (日本臨床美術協会副理事長・MACF 牧師)



【第5回大会（2013年）研究発表】

ナン・スタディに学ぶ認知症の神経病理と認知症予防における臨床美術の可能性

古田晶子（順天堂大学）

認知症患者と介護家族の期待に応える講座を目指して～京都府立医科大学神経内科での実践～

フルイミエコ（京都〈臨床美術〉をすすめる会） 他

3歳未満児保育に対する臨床美術実践プログラムの検討

保坂遊（東京家政大学） 他

「臨床美術士サポーター教育と実践」の試みー山形市立第二小学校における取り組みと成果ー

河合規仁（東北文教大学）